

広報

どうし

道志村民憲章

私たちの七里は、緑と清流と歴史の郷です。この地に生きること誇りをもち、平和な村を築くため、ここに憲章を定めます。

私たちは

- 一、自然を愛し平和な村をつくりたい。
- 一、生産に励み豊かな村をつくりたい。
- 一、伝統を重んじ、教養を高め文化の村をつくりたい。
- 一、人情といたわりの心を養い、福祉の村をつくりたい。
- 一、明るく健康で、活力ある村をつくりたい。

2002 February 2月号



**夢と希望に満ちた新成人
明日への飛躍が期待されます**

成人おめでとうございます。

(2002年 成人式)



式典において(国歌斉唱)



佐藤村長の式辞

一月十三日中央公民館において、平成十四年道志村成人式が華やかに行われ、色艶やかな振り袖や、羽織袴、スーツに身を包んだ新成人二十四名が出席しました。

式典では、村長の式辞や、来賓の方々からたくさんのお祝いの言葉をいただき、激励とお祝いの言葉が述べられました。

新成人を代表し、水越景子さんが「大先輩の方々から戴いた教訓をしっかり噛み締め、修養に務め、人格を磨き、成人としての重い責任を果たすべき義務、与えられる権利をしっかりと勉強して、自信と勇気を持って正しい人生の道を歩みたい」と力強い誓いのことが述べられました。

又今年の成人者が中学校の時の担任、副担任であった恩師の先生も出席し、りっぱな成人になりましたね、と激励とお祝いの言葉を述べられました。

最後に成人者が、趣向をこらし制作した、保育園児から中学校時代の時の思い出をスライドで見ると、歓声をあげたり、思い出話しをする人などなごやかな光景と、盛大な成人式が行われました。

明日を担う新成人のご活躍を期待いたします。

はたちのしおりに

投稿いただいた新成人一言(敬称略)

二十歳を迎えて

出羽 俊樹

二十歳を迎えて、いままでとは違う心構えで、これからの人生を過ごそうと思います。抱負として、心の大きい人間になれるよう、これからの自分を育てていきたいです。

二十歳を迎えて

村田 英明

二十歳になることなどずっと先のことだと思っていたら、あれよあれよとその時になってしまった。まさに光陰矢のごとく。ともあれ二十歳という大きな節目を迎え、より一層頑張っていきたい。

近況報告 学生生活を送っています。

二十歳を迎えて

菅谷 礼子

二十歳を迎えることができたのも、両親やたくさんの人達がいって支えてくれたからこそ、今の私がいると思います。両親やたくさんの人達に色々なことを教えてもらい、時に怒られる中で一人の人間として成長していくことができました。

二十歳となり、社会的、精神的に大人の仲間入りしましたが、責任感のある、自分の意志をしっかりと持った大人になりたいと思います。

近況報告 専門学校卒業予定

二十歳を迎えて

小林 誠

まだ大人なんて考えてみなかった僕も、この時を迎えるに当たり一歩大人への仲間入りとなりました。今までを振り返ってみると、大分わがままな自分を見直さなければなりません。そして人に迷惑をかけないように、今は一生懸命自分の目標に向かって一つ一つの仕事を覚えていくことです。

これからもたくさんさんの困難にぶつかっていくと思います。自分なりに精一杯努力する覚悟です。

二十歳を迎えて

大人としての自覚をもっていきたい。

杉本 早

二十歳を迎えて

無事に二十歳を迎えることができ、両親・家族にはとても感謝しています。

山口 詔子

今、私は自分の夢を叶えるために大学へ通っています。大学では自分のために学び、たくさんのことを身に付けていきたいと考えています。多くの経験を通して夢に向かって努力していきたいです。夢を実現させることが私にとって、社会人への第一歩になると思います。

近況報告 帝京科学大学理工学部

バイオサイエンス学科二年

二十歳の私が思うこと

佐藤 由美

この二十年間、とにかく好きなように生きてきた。そんな私の我が儘ぶりは私を育ててくれた親のシワを見ればよく解る。まさに反省と感謝の日々だ。どんなことでも「やってみなければわからない」と色々やってみた。けど実際はやってみてもよくわからないことが多かった。しかし経験はいつか必ず私を助けてくれる。後悔はない。いつでも、その瞬間の私がそれまでの結果である。一つの私も「我が人生に悔い無し！」と言える人生を、これからも送ってきたい。

近況報告

老人保健施設への就職が内定した。フリター！。



誓いの言葉を述べる水越景子さん



祝辞を述べる(渡辺正人先生)

これからの抱負

佐藤 共也

生まれて二十年、振り返ると楽しかった事、辛かったことがたくさん思い出されます。大人としての責任、長い将来に向かって歩んでいる自分。今の自分の存在を親に感謝し、これからも目標に向かって頑張ります。

近況報告

父親の友達の会社で毎日鉄筋の仕事をしています。

二十歳を迎えて

平賀 保江

二十歳を迎えて、いろいろ考えたけれども、私は二十年間大きなけがもなく病気もなく健康に過ごしてこれたことが一番良かったことだと思います。親が頑丈に産んだおかげですね。これからの抱負は、今までと同じように健康に過ごすことが目標です。ごく当たり前の事だと思えますが、すごく大事なこともあると思います。

近況報告 三月に山梨学院短期大学を卒業します。

二十歳を迎えて

佐藤 ゆかり

今まで出会った人や支えてくれた人、両親へ感謝の気持ちを忘れず、大きな心を持った大人になりたいと思います。

近況報告 武蔵野女子大学短期大学部で、建築の勉強をしています。

はたち

佐藤 健太

小さい頃は、「はたち」と聞いても自分とは無縁のものだと思っていました。しかし、今成人式を迎え、自分自身あの頃と比べてここが変わったかという、体が大きくなっ

たぐらいで変わったところは有りません。二十年間生きてきて今日この日を迎えることができたのも、両親や友達があつてこそだと思います。今年一つの節目である「はたち」を境に今まで以上に努力して、一步一步大人に近づきたいと思っています。

二十歳を迎えて

水越 景子

これからの私達の立場では大人として扱われます。今までと違い大人としての自由と権利があたえられますが、反面、責任と義務を持って行動しなければなりません。

私は今サービスマンの仕事についておりますが、多くの人に接することにより、日々学ぶ事の毎日です。人生の中で学ばべき事を多く吸収し成長していきたいと思えます。

そして、ここまで私を育ててくれた両親を始め、私がお世話になった人々、大切な友人に感謝の気持ちでいっぱいです。

近況報告 道志川温泉「紅椿の湯」に勤務

日々の仕事に頑張っている。

二十歳を迎えて

佐藤 拓郎

二十歳を迎えてまだあまり実感がわきません。しかし、十代とは違い責任や仕事に対してはつきりとした意志を持たなければいけないと思います。また、抱負としまして時間を大切にして、有効に使っていききたいと思えます。

近況報告 専門学校二年で毎日一生懸命やっております。



二十歳を迎えて抱負を一言

平成十四年

道志村消防団出初式



団長訓辞 白井勝光



団旗に注目！！

新春恒例の道志村消防団（団長白井勝光）の出初式が一月十四日道志中学校グラウンドにおいて挙行されました。

出初式は、総指揮者の号令により消防団員及び消防車両入場で始まり、人員報告、開式の辞、団旗入場、国旗掲揚、団長訓示、村長挨拶、新入団員紹介・宣誓が行われ、続いて山梨県消防協会会長及び道志村長の感謝状贈呈と消防活動に対し功績が認められた団員の表彰が行われました。

日頃は多忙な生業のかたわら、崇高な消防精神と強い責任感をもって火災をはじめ、各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るとともに、社会情勢の変化により益々複雑多様化の傾向にある災害等特に本年度は、米国多発テロの発生により、防犯活動に重点をおき、地域住民から信頼される消防団として、日夜献身的な活動を続けており今後の活躍が期待されます。



表彰

感謝状

山梨県消防協会会長感謝状
退職 団長 長田達義
火災早期発見者 出羽豊隆

道志村長感謝状

消防施設整備事業協力者
杉本千代満、池谷知久

表彰

山梨県消防協会会長表彰

甲種功労章

副団長 大田博文

乙種功労章

佐藤一彦、山口 元、佐藤万寿人

山本義信、佐藤孝昭、佐藤雅彦、

杉本正勝



小型ポンプ操法

山梨県消防協会東部支部長表彰

功績章
佐藤光美、佐藤照敏、山口晃利、
山口義弘、佐藤邦治、杉本公夫、
長田勝彦

山梨県富士北麓・

東部地域振興局長表彰

消防功労者

山口壮一、水越正明

都留警察署長及び

山梨県防犯協会都留支部長表彰
山口忠彦、佐藤義治、池谷朝夫、
出羽英俊、山口正彦、山口力三、
杉本正勝



新入団員

道志村長表彰

特別功労章（三十年勤続）

山口光美

功労章（二十五年勤続）

白井勝光、大田博文、水越正明、

杉本孝正

道志村消防団長表彰

永年勤続章（二十年勤続）

池谷朝夫、佐藤孝法、佐藤益弘、

佐藤智秀、平賀恵春、佐藤進次、

杉本秀久

勤続章（十五年勤続）

佐藤富治、佐藤茂栄、山口大成、

佐藤雅彦、山口 亮、山口正信、



機械器具及び服装点検

佐藤豊明、山口主徳、渡辺 弥

杉本正治、池谷寿男、池谷 勝

水越一成、水越嘉光、水越照男、

長田州弘

優良章（十年勤続）

渡辺富吉、志村 茂、山口俊男、

山口春男、池谷芳彦、水越一樹

精勤章（三年勤続）

山口俊一、諏訪本英樹、佐藤勇樹、

水越弘道、山口美明、平賀雅文、

渡辺政光、渡辺卓美、山口辰生

新入団員紹介

平成十三年度 新入団員

出羽勝頼、出羽正広、池谷栄一



開会式で挨拶 佐藤村長

道志溪谷～山中湖畔～忍野八海
駅伝競走大会

第十五回新春の富士山麓を走る道志溪谷～山中湖畔～忍野八海駅伝競走大会（南都留郡陸上競技協会主催）が六日、道志村役場前において開会式を行い、午前十時に出羽公昭副会長の号砲を合図に一齐にスタートし、忍野村役場前をゴールとする五区間三三、七キロ（一般女子、中学男女は五区間一八、一キロ）のコースでタイムを競いました。

この大会は三村活性化を目的に始まり、富士北麓に新春の訪れを告げるイベントとして定着。出場した二十六チームの約百三十人は、うっすらとした雪が残る峠道や湖畔などを力走、心地良い汗をかいていました。沿道でのご声援ありがとうございました。

優勝チームは次の通りです。

優勝

一般男子 北富士自衛隊

一般女子 巨摩高

壮年男子 起動輪

南都留郡町村 忍野村

中学男子 都留二中

中学女子 河口湖南中



役場前を一齐にスタート



選手宣誓（都留二中、杉田真吾選手）

一般質問

昨年十二月定例村議会において一般質問がありました。

質問の要旨とこれに対する村長など執行部の答弁の要旨は次のとおりです。



総務常任委員長 山口 一昭

一、市町村合併について

質問1

合併問題については、政府は、手厚い合併優遇策を揃え、合併推進に力を入れ、合併気運の盛り上りを計っており、県下においても、合併協議会が発足し、進んでいる事もきいております。又先頃の隣村の秋山村、上野原町と神奈川県の藤野町の三町村が合併に向けた協議を持つというニュースは、記憶に新しい所であります。こうした現状の中で村長はじめ行政は、合併問題をどのように考えているか、又今後どのような手順で合併の是非を明らかにしていくのか。もう一度考えを聞きたい。

答弁1

市町村合併問題は、地域の将来や住民生活に及ぼす事柄であることから、市町村や地域

住民が自主的、主体的に取り組むことが基本であります。地域の将来をどのように創造していくかということで大変重要な選択を迫られており、住民の意向が大切であり、言わば「行政と住民の協同作業」とも考えられ、十二分に協議をした上で判断していくことが肝要だと考えられます。

国で進めている市町村合併の背景を整理してみると次の七項目があげられます。

- 一、総合行政体としての自治能力の向上を図ること。
- 二、地方行政体制の構造改革を進める。
- 三、社会構造システムの変化への対応策
- 四、情報通信技術の成果の活用方策。
- 五、新たな時代の積極的な情報公開を進める。
- 六、地域社会の二十一世紀の新しいまちづくりを進める。
- 七、行政サービスの高度化を図れる方策として画期的な行政改革手法であるといわれております。

道志村としてどのような市町村合併について進めていくかということですが、九月定例議会でも申したとおり、去る十一月から東部広域市町村圏域の将来像に係る調査研究に着手し、十四年中に調査結果が出る予定となっております。

結果に基づいて住民への説明会や、意向調査を行うことを計画していきたいと考えております。

いずれにしましても、本村は置か

れた地勢上の制約があります。山中湖方面、都留市方面、秋山・上野原方面、神奈川県方面への通勤・通学、地域間交流などを進めていく上での時間短縮を図る基盤整備が今後の市町村合併の根幹ともいえる基本となることは間違いありません。

今後とも、基盤整備については隣接市町村に理解を求めるとともに県、国に強力に働きかけることもして参りたいと考えています。

質問2

市町村合併リレーシンポジウムにおいて市町村合併問題というものは、合併するかしないか二者択一、イエスかノーかという選択を迫られていることを感じました。

そうした中で、県下各地から合併問題のニュースが流れてきておりますが、こうした中で我々から見ても、合併問題をどうしていくのか待ったなしの状況にきていると思う訳です。合併の是非を決めるということには村長が申し述べたとおり、村民のコンセンサス、その他の事を取りまとめた中での決定だと思っております。それには、一つのシミュレーションだとか、材料であるとか、道志村の置かれた立場、道志の経営資源は何があるのか、合併した時のメリット、デメリットは、そうした研究をしていく必要があると思えます。

合併研究会のような組織を立ち上げて既に備えていくことが必要だと思えますが、そのような具体的な手順

答弁2

ご承知のとおり私共は、二市一町四村で東部広域連合を組織しております。

山梨県においては、東部地域が一番難しいという、山間僻地であると同時に山脈で遮られた町村が数多く有り、難しいだけに合併でなく連合広域行政を進めていこうという段階で合併協議がどんどん加速されて来たという現実があります。

道志村は、丹波山村、小菅村と同じように一千メートル以上の山に遮られて、とにかく合併協議以前に、足腰の強い自治体を作ってその以後でもいいじゃないかと考えております。

また厳しい選択ですが、課題として、道志村が置かれた立場ということを考えてときに、年毎に交付税などの手当てが薄くなるということは事実であります。何処へどうしようという事は具体的には有りません。とにかく、道志村をどうするのか代表者の皆さんとも、話をする訳ですが、村民の意識を高めて、どういう角度がいいのか、もう少し足腰を強くするまで頑張っていけるのか、じっくりと考えていきたいと思えます。

意見、要望

私の意見、要望ですが、足腰の強い村づくりが出来れば独自の行政を行なっていく事が一番理想だと思います。